

ママはあなる娼婦

鮎川かほる

- 一 陵辱された美人ママ
- 二 母子相姦の誘い
- 三 美尻調教パーティ
- 四 アナルマゾの嘆き
- 五 肛虐に啼く未亡人
- 六 バナナの挿入
- 七 美臀の流転
- 八 ママはあなる娼婦

一 陵辱された美人ママ

「華代はよお、後ろで奉仕する尻娼婦だぜ」

体躯の大柄な同級生の声は大きく、昼休みの教室で昼食を終えた少年少女が耳をそばだてている。

「お前の美人のママさんは、呼び出すたびに新一をいじめるのはやめてほしいって言ってなあ、そのかわりに母親の体を自由に使ってくださいって可愛い声で懇願するのさ。四つん這いの色っぽい尻をかかげてさあ、アヌスもおまんこも何もかも丸見えにさせて、その熟れきった体でねつとりと奉仕するのよ。38歳のママさんだが、身体は若いぜ。乳房は張りがあってよお、尻はむっちりとしていいヒップだぜ。」

「剛太さん、そんな話を聞いていたらもう我慢できないよ。新一の母親を俺にも抱かせてくれよ」

「美人未亡人の阿川華代を抱かせてくれ。たまらないよ。」

「チンポが疼いてたまりませんよ。」

取り巻きの少年たちは、同級生の美人の母親を抱かせてほしいと狂いそうな声を出してせがむのだ。

「ああ、いいぜ。そろそろ華代の軀は解禁にしてやるぜ。そうだな…一人3万でいいぜ。きっちり金を出せばいつでも抱かせてやるさ。華代はなんたって尻娼婦だからよお。」

「3万ですか？…3万は高いですよ。まけてくださいよ」

「3万が高いだと？この身体を見ろよ。むっちりしたいい身体をしているだろ？胸も尻も一級品だぜ。それにおまんこはよく締めつけてきやがる。美人ママさんの身体を味わうのに3万が高いって言うのかい？それに何でもありの美熟女娼婦だ。後ろもOK。SMプレイだってもちろんやりほうだいだ。」

教室が一気に沸いた。剛太の手にした写真には、全裸で片膝を立てて座っている阿川新一の母、華代の股間が映し出されていた。股間から突き出ている異物が見える。大ぶり

の張型が華代の股間に突き刺さっており、その卑猥な姿を写真におさめたものだ。目鼻立ちの整った美しい顔立ちの瞳は、憂いを帯びて哀しい色がうかんでいる。それでも写真の中の美熟女は視線を正面にすえて撮影されていた。剛太は華代の写った写真をクラスの男子たちに見せびらかし、最後に自分の席に座って、両手を膝の上で硬く握っている阿川新一の顔の前に突き出した。

「よく見な、お前のママさんのおまんこ写真だぜ。華代はよお、こういう恥ずかしい写真を撮られてよお、やめてっ
て言っているくせに、おまんこを濡らしていやがる。まったく淫乱な女だぜ。」

新一は椅子から立ち上がった。剛太をこわばった顔で見つめる。剛太の身長と比べると新一は頭一つ低い。華奢な身体はまるで少女のようである。剛太は新一が殴りかかってくるのではないかと軽く身構えたが、新一の目が気弱にそれると

「お前には手をださねえぜ。華代との約束だ。身を生贄に

捧げた哀れな母親の頼みをきいてやらなければ、ばちが当たるといふものさ。はははは」

剛太の高笑いを背に、新一は教室を走り出た。涙で前がくもって見えなかった。